

## 『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第二集刊行によせて

弘前大学深浦エコサテライトキャンパス所長

弘前大学 理事（社会連携担当）・副学長 石川 隆洋

この度、弘前大学が連携協定を結んだ深浦町において、深浦円覚寺所蔵古典籍調査プロジェクトの成果として、『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第二集が平成三十年度に引き続き刊行の運びとなったことを心より嬉しく思います。

深浦町と国立大学法人弘前大学は、平成二十七年五月十五日に、地域課題への対応や活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に資するため、相互に連携・協力するための協定を締結しました。またその連携協定に基づき、深浦町をフィールドに、弘前大学と町とが各種事業・活動を展開する「弘前大学深浦エコサテライトキャンパス」を開設することに關する覚書を締結し、平成二十八年五月二十日に弘前大学深浦エコサテライトキャンパスを開所しました。以来、様々な講義や事業を行いながら、深浦町との連携を深めているところです。

さて、深浦円覚寺古典籍調査プロジェクトは、この弘前大学深浦エコサテライトキャンパスの開講式に行われた第一回公開講座での、弘前大学人文社会科学部渡辺麻里子教授による円覚寺の歴史と文化財についての講演に始まります。開講式準備のための私どもの訪問がきっかけとなり、円覚寺に多くの古典籍が所蔵されていることが判明、以後、様々な調査の展開に加え、一般市民に対する講演会を深浦町と弘前市で実施して参りました。

深浦町と弘前大学の連携によって、このような深浦町の歴史や文化の地域資源を掘り起こせたこと、深浦町民や木造高校深浦校舎の生徒さんたちも協働する調査へと発展し、人材育成や町の地域活性化につながる展開ができたことは、弘前大学深浦エコサテライトキャンパスの設立の目的にもかかない、誠に喜ばしいことです。本プロジェクト事業

にご支援くださった全ての皆様に、心より感謝を申し上げます。

最後になりますが、平成三十年度に引き続き平成三十一年度（令和元年度）においても、青森学術文化振興財団からの助成を受けることができ、報告書の刊行に至りました。令和二年度もこのプロジェクトは継続いたしますので、今後さらなる成果を祈念しています。また今後ますます深浦の地域活性化に尽力し、深浦町と弘前大学との連携を深めていきたいと思っております。これをもちまして、御礼かたがた、ご挨拶とさせていただきます。

（令和二年一月吉日記）